
200m

界あさみ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

200m

【Nコード】

N0192F

【作者名】

界あさみ

【あらすじ】

市立南中学校に通う中2の男の子二人を描く、本格的な文学作品！陸上部で活躍する二人を同じ中学生作家の目線から描きます。

第1部：桜、舞って

7時50分。朝食を済ました少年は家を出て、自転車にまたがりヘルメットをかぶった。青空の下、力強くペダルをこぐ。友達の家に寄り、そこから学校までの残り1キロ程の道のりを自転車を押して歩いて通う友達と一緒に行く。

薄いピンク色の花びらが少年の鼻の上に落ちてきた。それを彼らは笑いながらそっと払い除けた。

- 春が来たんだなあと思いいながら。

「なあ、

今度の大会どうする？どうやって行く？」 自転車の少年が聞いた。

「俺は何でもオーケーだよ。バスと電車で行くか」 歩きの少年が答えた。微笑み合う二人はとても幸せそうだった。学校の門の近くにある大きな桜の木の下を歩いていた。

きっと誰もが認めるだろう。この中学校で一番短距離で足が速い人と長距離で一番足の速い人、この人達が一番の仲良しだということ。

そしてもつと上を目指し二人とも成長し続けるということ。

二年目の中学校での新学期・春の始業式を迎えた。午前4時間、午後2時間の授業を終えた少年は鞆に教科書やら空の弁当やらを詰め込むともう一人の少年と一緒に連れ立って陸上部の活動場所へと向かった。

「薫、また始まったな」 「何だよ、いきなり。拓海ってそんな感傷的な奴だったっけ？」

ハハハ……と笑いながら二人共部指定のジャージに着替えてスパイクに履きかえた。

「俺さあ、たまに長距離選手辞めてよかったのかなあって思う

んだけど」

神田薫は一年の時には長距離選手だったのだがよい結果が出ず、顧問の先生の案で短距離へと種目を代えたのだ。そうしたらみるみるうちに市内大会準優勝、県大会では入賞まであと一步というところまで登りつめた。あの時は顧問の先生の大竹正之・大ちゃん・までもが審判に確認したほどだった。「長距離やってた頃ってやつぱ苦しかったけど……」

「薫、俺今ちょっとがっかりしたぜ」

「何がだよ」

「お前ってそう優柔不断な奴だったのかって」

「だって俺、長距離辞めてから部活がダルいつていうか。毎日が空気なんだよね」

「空気？」

「そう。メリハリが感じられないんだ」

確かに最近、薫のいつもの元気が変だと思っていた。元気はあるが、空元気という訳でもなく、本当の元気とも少し違った。

理由は……？

薫の長距離というのは本当の理由ではないと思う。絶対に、他に何かあると拓海は感じていた。ぼーっとする姿をよく見かけるようになってから

「ダルい」などという言葉を聞くようになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0192f/>

200m

2011年1月14日14時37分発行